

令和 8 年度 函館五稜郭病院臨床研修プログラム概要

1. プログラムの名称／番号

函館五稜郭病院臨床研修プログラム／

(元 : 030763801)

2. プログラム責任者

プログラム責任者 矢和田 敦(副院長/消化器内科)

副プログラム責任者 藤戸 善伸(診療部長兼総合診療科科长)／石崎 力久(形成外科科長)

3. 運営体制

プログラムの管理運営は、臨床研修管理委員会が定期的および必要の都度会議を開き、管理運営上の諸問題の検討を行う。

病院管理者	病院長	中田 智明(指導医)
委員長	副院長(消化器内科)	矢和田 敦(指導医)
副委員長	診療部長(総合診療科)	藤戸 善伸(指導医)
副委員長	形成外科科長	石崎 力久(指導医)
救急医療対策委員長	臨床顧問兼救急科科长	小林 慎(指導医)
循環器内科	科長	村瀬 弘通(指導医)
呼吸器内科	主任医長	角 俊行(指導医)
腎臓内科	科長	金子 尚史(指導医)
総合診療科	臨床顧問	加地 正英(指導医)
外科	科長	木村 聡元(指導医)
麻酔科	科長	平井 裕康(指導医)
産婦人科	診療部長	福中 規功(指導医)
整形外科	科長	佐藤 攻(指導医)
心臓血管外科	科長	石川 和徳(指導医)
呼吸器外科	診療部長兼科長	上原 浩文(指導医)
耳鼻咽喉科	科長	伊藤 史恵(指導医)
病理診断科	主任医長	有岡 琴美
泌尿器科	副院長兼科長	高橋 敦(指導医)
放射線治療科	科長	藤井 収(指導医)
放射線診断・IVR 科	科長	村上 健司(指導医)
PET センター	センター長	梶 智人
小児科	科長	清水 直政(指導医)
診療部	臨床研修医	基幹型 2 年次より代表者 1 名
事務部	事務部長	佐々木 慎司(事務部門責任者)
看護部	副看護部長	宇田 克己(看護部門指導責任者)
医療部	薬剤科主任	鷲谷 和俊(指導者)
医療部	放射線係長	小山内 幸次(指導者)
医療部	検査科主任	中尾 瑞葵(指導者)
医療部	栄養科管理栄養士	竹内 理絵(指導者)
医療部	臨床工学科長	雲母 公貴
医療部	臨床工学科主任	若狭 亮介(指導者)
医療部	リハビリテーション科係長	三木 康寛(指導者)

事務部	総務課長	田中 雄大
事務部	総務課臨床研修管理係 長	古川 真也(事務局)
事務部	総務課臨床研修管理係	山下 詩歩(事務局)
外部委員	北美原クリニック理事長	遠藤 明太
外部委員	函館短期大学学長	澤辺 桃子
函館渡辺病院	副理事長／名誉院長	三國 雅彦(研修実施責任者)
ななえ新病院	病院長	高金 明典(研修実施責任者)
松前町立松前病院	病院長	八木田 一雄(研修実施責任者)
北海道立江差病院	病院長	伊藤 靖(研修実施責任者)
函館新都市病院	病院長	原口 浩一(研修実施責任者)
函館脳神経外科病院	病院長	妹尾 誠(研修実施責任者)
市立函館病院	副院長	酒井 好幸(研修実施責任者)
札幌医科大学附属病院	病院長	渡辺 敦(研修実施責任者)
亀田北病院	病院長	宮澤 仁朗(研修実施責任者)
共愛会病院	病院長	立石 晋(研修実施責任者)

4. プログラムの目的と特色

(目的)

第一線の臨床医または専門医を目指す医師として第一歩を踏み出すにあたり、初期診療から高度専門診療の現場の体験を通じて、必要な基本的知識、技術、態度を修得し、併せて医学の進歩に対応した診療能力向上を図るための基礎を培い、地域医療を担うチームの一員として他職種と連携を保ち、患者および家族の心理的、社会的側面への理解を深め、問題を解決できるバランスのとれた人材育成を目的とする。

(特色)

道南医療圏の急性期医療を担う函館五稜郭病院での臨床研修。地域がん診療拠点病院として高度ながん診療にも力を入れている。内科系、外科系ともに症例数が多く、プライマリーから高度専門医療まで幅広く臨床経験することができる。第一線での研修を行うことで実践的なスキルアップを図り、独り立ちできる医師を育成する。

5. プログラムの概要

(1) 研修目標（一般目標、行動目標、基本方針）

【一般目標(GIO)】

臨床研修は、医師が医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることを目標とする。

【行動目標(SBOs)】

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。)を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

【基本方針】

基本目標と診療科別研修目標を設定し、それに沿って研修を行う。診療科別研修目標については各診療科での研修期間の長短に応じて到達目標を考慮する。

(2) 研修方法 (LS)

- 1) 研修期間は2年間とする。
- 2) 1年目は内科24週、外科12週、救急4週、麻酔科8週(救急研修としての基本手技研修4週を含む)、精神科4週を必修とする。
- 3) 1年目必修の内科24週は、消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科の4科をそれぞれ4週ないし8週間ローテートする。
- 4) 外科研修は外科4週、脳神経外科4週、外科系選択研修4週(外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科から選択)の12週間とする。
- 5) 救急/麻酔科研修は12週間の研修とする。
- 6) 1年目必修の精神科研修は函館市内の「函館渡辺病院」または「亀田北病院」にて行う。
- 6) 2年目は小児科、産婦人科、救急科、総合診療科(一般外来研修)、地域研修をそれぞれ4週間必修とし、残り32週間を自由選択期間とする。自由選択期間は22の診療科から自由に選択できる。また、「札幌医科大学附属病院」での研修を最大8週まで選択することができる。
- 7) 救急部門は、救急科にて1年次、2年次にそれぞれ4週間の研修を行うほか、麻酔科にて救急基本手技実習を4週間行う。
- 8) 地域研修は同法人グループ内の「ななえ新病院」、「松前町立松前病院」、「北海道立江差病院」「共愛会病院」のいずれかにて行い、地域連携から在宅医療・介護に関する研修を実施する。
- 9) 脳神経外科研修は「函館新都市病院」または「函館脳神経外科病院」にて行う。
- 10) 小児科研修は「函館五稜郭病院」または「市立函館病院」にて行う。

年次	1～4週	5～8週	9～12週	11～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
1年次	内科 (消化器、循環器、呼吸器、腎臓の4科を4週ないし8週ずつ研修)						外科	脳神経外科 (函館新都市病院 または函館脳神経外科病院)	外科系 選択※	救急①	救急② (麻酔科にて救急手 技実習)	麻酔科	精神科 (函館渡辺病 院または亀田 北病院)
2年次	地域 (ななえ新病院、松 前病院、江差病院、 共愛会病院)	小児科 (函館五稜郭 病院、市立函 館病院)	産婦人科	救急③	総合診療科 (一般外来研修)	自由選択研修							

※ 外科系選択研修 4 週の選択可能診療科は外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科から選択。

※ 1年目、2年目ともにローテーション順は全体の人数によって変更有り。

<選択可能科>

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、小児科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、

外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、麻酔科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、地域研修(町立松前病院)、脳神経外科、総合診療科、救急科、精神科の 22 科。

(3) 指導体制

研修医は各診療科の指導医のもとに患者を受け持ち、診療の実践にあたりながら各科の診療プログラムに準じて研修を行う。指導医と研修医間の面接を定期的に行い、指導医と研修医間の意思疎通を保つ。

(4) 研修の記録及び評価方法(Ev)

- ① 到達目標をもとに作成したWeb研修手帳(電子カルテ端末上)に、研修医は日々経験した内容を入力する。また、「経験すべき症候(29)、経験すべき疾病・病態(26)」を経験した場合は、臨床研修サマリを記載し、指導医の承認を得る。一般外来研修やプログラムにおいて必修としている勉強会やセミナー、チーム活動への参加などは経験した記録として都度EPOCに入力を行う。
- ② 各科研修が終わる毎に、研修医評価票を用いて指導医、他職種の指導者による評価を行う。
- ③ 半年に1回、研修医個々の到達目標の修得状況を臨床研修管理委員会に報告し、著しく修得状況が悪い場合などの対応について協議する。
- ④ 2年間の研修修了時にプログラム責任者による達成度判定を実施、臨床研修管理委員会にて研修修了の認定を行う。
- ⑤ 臨床研修修了者には、臨床研修修了証を交付する。

(5) 研修修了要件

下記の項目を全て満たした場合に研修修了を認める。

- ① 研修実施期間
 - ア 研修期間(2年間)を通じた研修休止期間が90日以内
(当院において定める休日は含めない)
 - イ 研修休止した場合の理由が、妊娠、出産、育児、傷病等の正当な理由である
(研修プログラムで定められた年次有給休暇を含む)
- ② 臨床研修の到達目標達成度
 - ア 厚生労働省が示す「臨床研修の到達目標」のうち、総ての必須項目の達成
 - イ 総ての臨床研修サマリの提出
- ③ 臨床医としての適正な評価
 - ア 安心・安全な医療の提供ができる
 - イ 法令・規則を遵守できる
 - ウ 医療人としての適正に問題がない

(6) 研修医の処遇

- 身 分 正職員(常勤) ※研修期間中のアルバイトを禁ずる

- 給 与 1年次 月額 460,000円、2年次 月額 480,000円
- 賞 与 なし
- 勤 務 時 間 月～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～13:00
- 時間外勤務の有無 あり
- ※時間外・休日労働最大想定時間数(年単位換算):960時間
- ※前年度(令和6年度)実績:1人当たり年単位平均 約370時間
- 当 直 の 有 無 救急当直:1～2回/月
病院当直(宿日直許可):1～2回/月 ※2年次
- 休 暇 年次有給休暇(1年目22日間、2年目23日間)、
バースデー休暇、年末年始、開院記念日
- 社 会 保 険 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険加入
- 医師賠償責任保険 個人加入
- 宿 舎 あり(計25戸)
※原則宿舎入居。やむを得ない事情で入居できない場合は要相談。
- 手 当 時間外手当(指定日加算有り)、宿直手当、準夜手当、
研究旅費手当、健診手当 等
- 個 人 ブ ー ス あり
- 仮 眠 室 あり
- 健 康 診 断 年2回(ただし採用時の健康診断を含む)

(7) 研修医の妊娠・出産・育児に関する施設及び取組に関する事項

<院内保育所>

- 院内保育所の有無 あり ※開所時間: 00時00分～24時00分
- 病 児 保 育 なし
- 夜 間 保 育 あり

<保育補助>

- ベビーシッター・一時保育等利用時の補助 なし

<体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所>

- 休 憩 場 所 なし
- 授 乳 ス ペ ー ス あり

- 研修医のライフイベントの相談窓口 あり
- 窓口の専任担当 あり
- 各種ハラスメントの相談窓口 あり

(8) 選考方法

- 募 集 人 数 : 11名
- 選 考 方 法 : 面接、小論文にて研修管理委員会が評価しマッチング順位を決定。
- 必 要 書 類
 - ① 願書兼履歴書(ホームページからDL) ② 卒業見込証明書 ③ 成績証明書

④ CBT個人成績表(写し) ⑤小論文

■ 応募先

〒040-8611 函館市五稜郭町 38 番 3 号

函館五稜郭病院 総務課臨床研修管理係 古川 真也

TEL:0138-51-2295、FAX:0138-56-2695

E-mail: gby-rinken@gobyu.com

6. 病院群 概要

(1) 函館五稜郭病院 (基幹型病院)

- 正式名称 社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院
- 所在地 〒040-8611 北海道函館市五稜郭町 38 番 3 号
- 許可病床数 480 床(ICU 10 床)
- 診療科 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、小児外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、歯科口腔外科、麻酔科、脳神経外科、救急科、緩和ケア内科
- 職員数 1,127 名(うち医師 119 名(嘱託含む))
- 入院患者数 410 名(2024 年度 1 日平均)
- 外来患者数 933 名(2024 年度 1 日平均)
- 平均在院日数 11.2 日(2024 年度平均) ※除外分なし
- 分娩件数 135 件(2024 年度)
- 剖検件数 5 件(2024 年度) ※病理医 1 名常勤
- 救急車搬送患者数 3,334 名(2024 年度)
- 手術件数 5,390 件(2024 年度)

(2) 函館渡辺病院

- 許可病床数 515 床(一般 120 床、精神 419 床)
- 所在地 北海道函館市湯川町1丁目 31 番1号
- 診療科 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、内視鏡内科、糖尿病内科、内分泌内科、外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、小児皮膚科、精神科、児童精神科、老年精神科、リハビリテーション科、放射線科
- 研修内容 精神科(4週必修／自由選択)
- 研修実施責任者 副理事長・名誉院長 三國 雅彦
- 指導医 高田 和彦

(3) 亀田北病院

- 許可病床数 精神 398 床(精神一般病棟 280 床、認知症治療病棟 60

	床、精神療養病棟 58 床)
■ 所在地	北海道函館市石川町 191 番地 4
■ 診療科	精神科、心療内科、内科、リハビリテーション科、放射線科
■ 研修内容	精神科(4週必修／自由選択)
■ 研修実施責任者	院長 宮澤 仁朗
■ 指導医	宮澤 仁朗、柳川 厚史、阪本 一剛

(4) ななえ新病院

■ 許可病床数	199 床(一般 49 床、療養 150 床)
■ 所在地	北海道亀田郡七飯町本町7丁目657-5
■ 診療科	内科、循環器内科、精神内科、整形外科、リハビリテーション科
■ 研修内容	地域医療(4週必修)
■ 研修実施責任者	院長 高金 明典
■ 指導医	高金 明典

(5) 松前町立松前病院

■ 許可病床数	93 床
■ 所在地	北海道松前郡松前町字大磯 174 番地の 1
■ 診療科	内科、小児科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、人工透析
■ 研修内容	地域医療(4週必修／自由選択)
■ 研修実施責任者	院長 八木田 一雄
■ 指導医	八木田 一雄

(6) 北海道立江差病院

■ 許可病床数	198 床 (一般 146 床 精神 48 床 感染床 4 床)
■ 所在地	北海道桧山郡江差町字伏木戸町 484 番地
■ 診療科	内科、消化器内科、循環器科、呼吸器科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、神経科、精神科、麻酔科、リハビリテーション科
■ 研修内容	地域医療(4週必修)
■ 研修実施責任者	院長 伊藤 靖
■ 指導医	伊藤 靖、田中 吉則、ドカティ 桜、朝倉 啓文

(7) 共愛会病院

■ 許可病床数	378 床(一般 155 床、療養型 133 床、障害者 45 床、包括ケア 45 床)
■ 所在地	北海道函館市中島町 7 番 21 号
■ 診療科	内科、外科、小児科、整形外科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、心療内科、麻酔科、形成外科、放射線科、耳鼻

- 研 修 内 容 咽喉科
- 研修実施責任者 地域医療(4週必修)
- 指 導 医 院長 立石 晋
- 水島 豊、金子 登、立石 晋、吉村 英敦、佐藤 賢一郎、
澁田 達史、坂本 幸基、加藤 次朗、久保田 瑛進、西江 渉

(8) 函館新都市病院

- 許 可 病 床 数 155 床
- 所 在 地 北海道函館市石川町 331-1
- 診 療 科 脳神経外科、脳神経内科、整形外科、循環器内科、内科、小児科、
リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、歯科
- 研 修 内 容 脳神経外科(4週必修／自由選択)
- 研修実施責任者 院長 原口 浩一
- 指 導 医 原口 浩一、尾上 一民、横山 林太郎

(9) 函館脳神経外科病院

- 許 可 病 床 数 128 床(SCU 9 床)
- 所 在 地 北海道函館市神山 1 丁目 4 番 12 号
- 診 療 科 脳神経外科、循環器科、麻酔科、リハビリテーション科
- 研 修 内 容 脳神経外科(4週必修／自由選択)
- 研修実施責任者 院長 妹尾 誠
- 指 導 医 山崎 貴明

(10) 市立函館病院

- 許 可 病 床 数 648 床(一般病床 582 床、感染症病床 6 床、結核病床 10 床、精神
病証 50 床)
- 所 在 地 北海道函館市港町 1 丁目 10 番 1 号
- 診 療 科 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、
血液内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経
外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、
小児科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーショ
ン科、放射線科、泌尿器科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、
矯正歯科、歯科口くう外科
- 研 修 内 容 小児科(4週必修／自由選択))
- 研修実施責任者 副院長 酒井 好幸
- 指 導 医 酒井 好幸、川嶋 雄平、笹岡 悠太

(11) 札幌医科大学附属病院

- 許 可 病 床 数 922 床(一般病床 890 床、精神病床 32 床)
- 所 在 地 北海道札幌市中央区南 1 条 16 丁目 291 番地

- 診 療 科 消化器内科、免疫・リウマチ内科、循環器・腎臓・代謝内分泌内科、呼吸器・アレルギー内科、腫瘍内科、血液内科、神経内科、消化器・総合・乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、神経再生医療科、婦人科、産科周産期科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、神経精神科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、総合診療科、歯科口腔外科、リハビリテーション科
- 研 修 内 容 2年目の自由選択期間に最大8週まで、上記診療科から選択可能
- 研修実施責任者 病院長 渡辺 敦

以 上